

めぐみイエス・キリスト教会

2025年2月16日(日)第三主日礼拝

午前10時より

週報「通算第746号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌102「主は命を」	p. 142
【交読文】	No.51 マタイの福音書5章(抜粋)	p. 920
【賛美Ⅱ】	新聖歌235「罪重荷を除くは」	p. 356
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【前回説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル新曲「神様は」	
【聖書朗読】	ルカの福音書8章26節～30節	p. 128下段
【礼拝説教】	《ゲラサ人の地において》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」	p. 236
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

●ポイント1. デカポリスの一つゲラサの町の問題とは？

※マルコの福音書5章19節「主イエスの言葉から」 (新約p.74下段)

5:19 しかし、イエスはお許しにならず、彼にこう言われた。「あなたの家、あなたの家族のところに帰りなさい。そして、主があなたに、どんなに大きなことをしてくださったか、どんなにあわれんでくださったかを知らせなさい。」

●ポイント2. 悪霊の支配下にあることと、取り憑かれることとは？

※エペソ書2章1節～2節「パウロの理解から」 (新約p.385下段)

2:1 さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、
2:2 かつては、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。

●ポイント3. 私たちに与えられている武器と武具とは？

※エペソ書6章10節～18節「信仰・み言葉・祈り」 (新約p.302上段)

6:10 終わりに言います。主にあつて、その大能の力によって強められなさい。

6:11 悪魔の策略に対して堅く立つことができるように、神のすべての武具を身に着けなさい。

6:12 私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです。

6:13 ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、一切を成し遂げて堅く立つことができるように、神のすべての武具を取りなさい。

6:14 そして、堅く立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、

6:15 足には平和の福音の備えをはきなさい。

6:16 これらすべての上に、信仰の盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢をすべて消すことができます。

6:17 救いのかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。

6:18 あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのために、目を覚ましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くして祈りなさい。

◎先週のメッセージ【ガリラヤ湖の嵐を静める主イエス】

《主イエスは、ペテロの家において、弟子たちと夕食を共にし、カペナウムからガリラヤ湖の向こう岸の地に渡ろうと言われました。

舟で渡っている間に、主イエスは眠り始められました。そこに事件が起こります。激しい突風が起こって波が舟の中にまで入り、舟は水で一杯になったのです。十二弟子たちは何とかして、自分たちと主の命を救おうと、一生懸命に舟から水を掻き出します。彼らも、主イエスもずぶ濡れになったはずですが、しかし、それでも主イエスは、ぐっすりと寝込んでいたのです。これは、ヨナと同じことが繰り返されたと考えられます。ヨナを乗せたタルシシュ行きの舟が、激しい暴風に見舞われて難破しかけた時、ヨナは船底で、ぐっすりと眠っていたのです。

それに気づいた船長がヨナを起こしに行きます。この時には、ヨナを海に投げ込むことによって、嵐は一瞬にして静まります。

また今回の出来事は、詩篇107篇にも預言されています。そこには『主が命じて激しい暴風を起こされると風が波を高くした。この苦しみの時に彼らが主に向かって叫ぶと主は彼らを苦悩から導き出された。主が嵐を鎮められると波は穏やかになった。波が凪いだので彼らは喜んだ。主は彼らをその望む港に導かれた。』と書かれています。

「先生、私たちは死んでしまいます。」弟子たちは主を起こします。「黙れ。静まれ。」すると、一瞬にして、湖は凪ぎになったのです。「あなたがたの信仰はどこにあるのですか。」

「風や水までが従うとは、いったいこの方はどういう方なのだろうか。」

この質問の答えは、後に同じような状況を通して与えられます。その時、弟子たちは「まことに、あなたは神の子です」と言って、主を礼拝します。これが答えなのです。また、この質問はすべての人々に投げかけられています。つまり、その人と主イエスとの関係性が問題なのです。救いとは、主イエスご自身に個人的に出会うことなのです。》

◎お知らせ

※次回は2025年2月23日午前10時より、通常通り行ないます。